

介護保険運営協議会 (第8回)	資料3
平成29年11月16日	

＜集計分析結果＞

# 在宅介護実態調査結果

～第7期介護保険事業計画の策定に向けて～

平成29年1月

＜西東京市＞



# 目次

## 1. 調査概要

(1) 調査の設計 [P. 1]

(2) 調査項目 [P. 1]

(3) 回収結果 [P. 1]

## 2. 主な調査結果

(1) -① 要介護度にあわせた支援の充実による介護者の負担軽減 [P. 2]

(1) -② 複数の支援・サービスの一体的な提供 [P. 3]

(2) -① 就労に効果的な支援策の実施に向けた働きかけ [P. 4]

(2) -② 就労形態に応じた介護サービスの充実 [P. 5]

(3) -① 在宅生活の継続に必要な支援・サービスの充実 [P. 6]

(3) -② 単身者世帯への支援・サービスの充実 [P. 7]

(4) 適切なサービス利用の組み合わせの支援と負担軽減に向けた仕組みの充実 [P. 9]

(5) 在宅療養生活を支える支援の充実 [P. 10]

# 1. 調査概要

## (1) 調査の設計

本調査は、厚生労働省が提示した「在宅介護実態調査実施のための手引き」を参考に、要介護者の在宅生活の継続や介護者の就労継続に有効なサービスのあり方を検討することを目的として実施した。

### ① 調査対象者

市内の在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている人のうち、平成 28 年 6 月以降に更新申請・区分変更申請に伴う認定結果を受けた人のうち 1,200 人

### ② 抽出方法

「介護保険システム」からの出力データを用いて無作為抽出

### ③ 調査方法

郵送による配布・回収

### ④ 調査時期

平成 29 年 1 月 6 日～1 月 31 日

(督促状兼御礼状を平成 29 年 1 月 20 日に郵送)

## (2) 調査項目

厚生労働省の調査項目 (オプション項目を含む 19 問)
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 世帯類型について</li><li>○ 介護保険以外の支援・サービスの利用状況について</li><li>○ 施設等への入居・入所の希望について</li><li>○ 家族等の介護の有無について</li><li>○ 介護者の就労制約の可否に係る意識について</li><li>○ 介護者が不安に感じている介護について</li></ul>

## (3) 回収結果

回収結果は、816 票である。

## 2. 主な調査結果

国が示す5つの検討テーマに基づいた主な分析結果を掲載している。

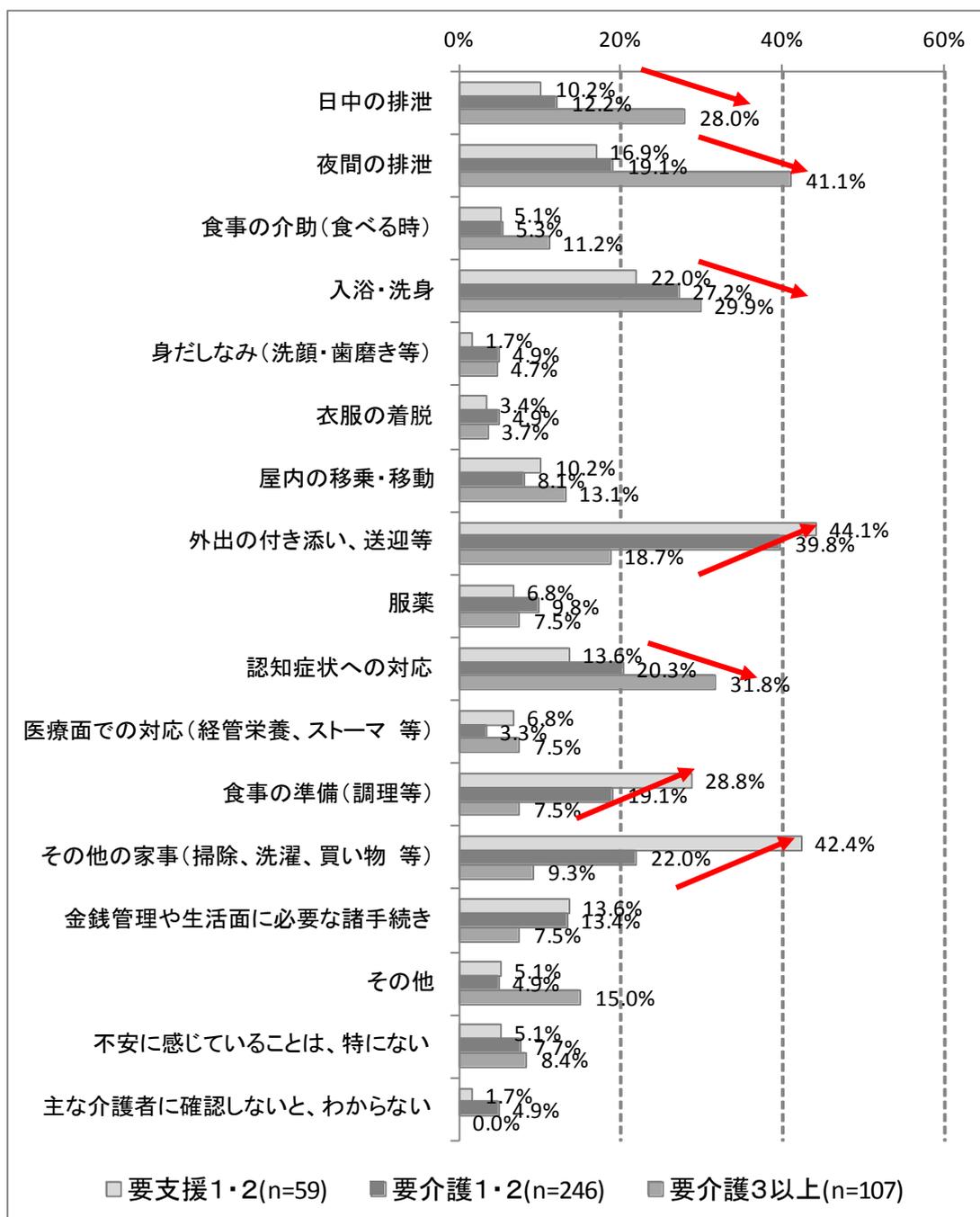
### 【検討テーマ1：在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討】

#### (1) ①要介護度にあわせた支援の充実による介護者の負担軽減

要介護度別に主な介護者が不安を感じる介護をみると、要介護3以上では「日中の排泄」「夜間の排泄」「認知症状への対応」「入浴・洗身」が要支援1・2、要介護1・2と比べ増加傾向となっている。一方、要支援1・2の軽度な場合は「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備」「その他の家事」に不安を感じている。

在宅生活の継続に向けて介護者の負担を軽減するためには、要介護度にあわせた支援策が必要となっている。

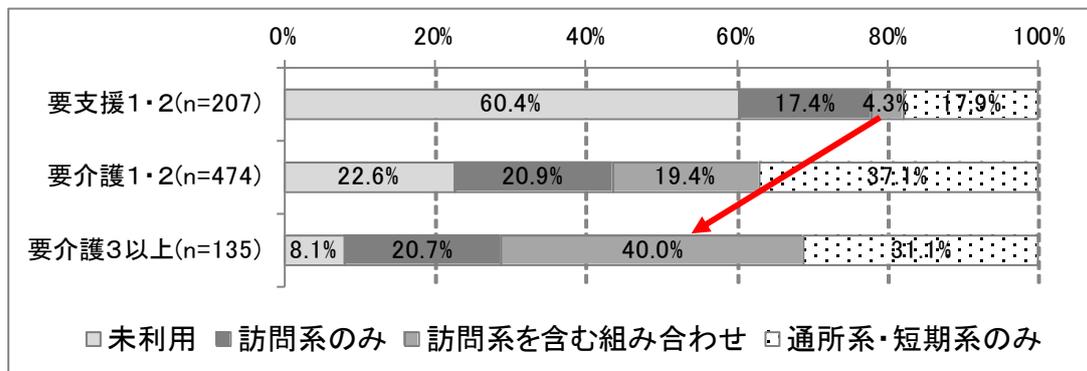
■要介護度別・介護者が不安を感じる介護（クロス集計版P4）



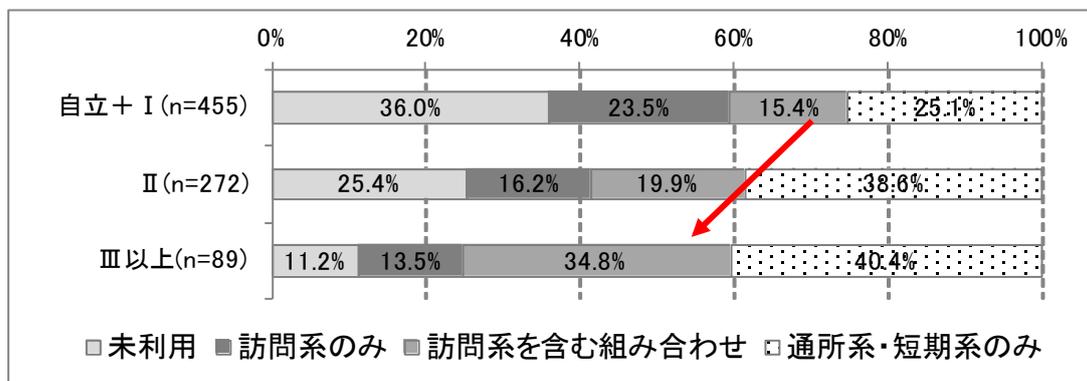
### (1) -②複数の支援・サービスの一体的な提供

要介護度別や認知症自立度別のサービス利用の組み合わせをみると、重度化に応じて「訪問系を含む組み合わせ」の割合が多くなっている。このことから重度化に対応できるよう複数の支援・サービスを組み合わせた一体的提供の仕組みの充実が必要となっている。

■要介護度別・サービス利用の組み合わせ (クロス集計版 P9)



■認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ (クロス集計版 P9)

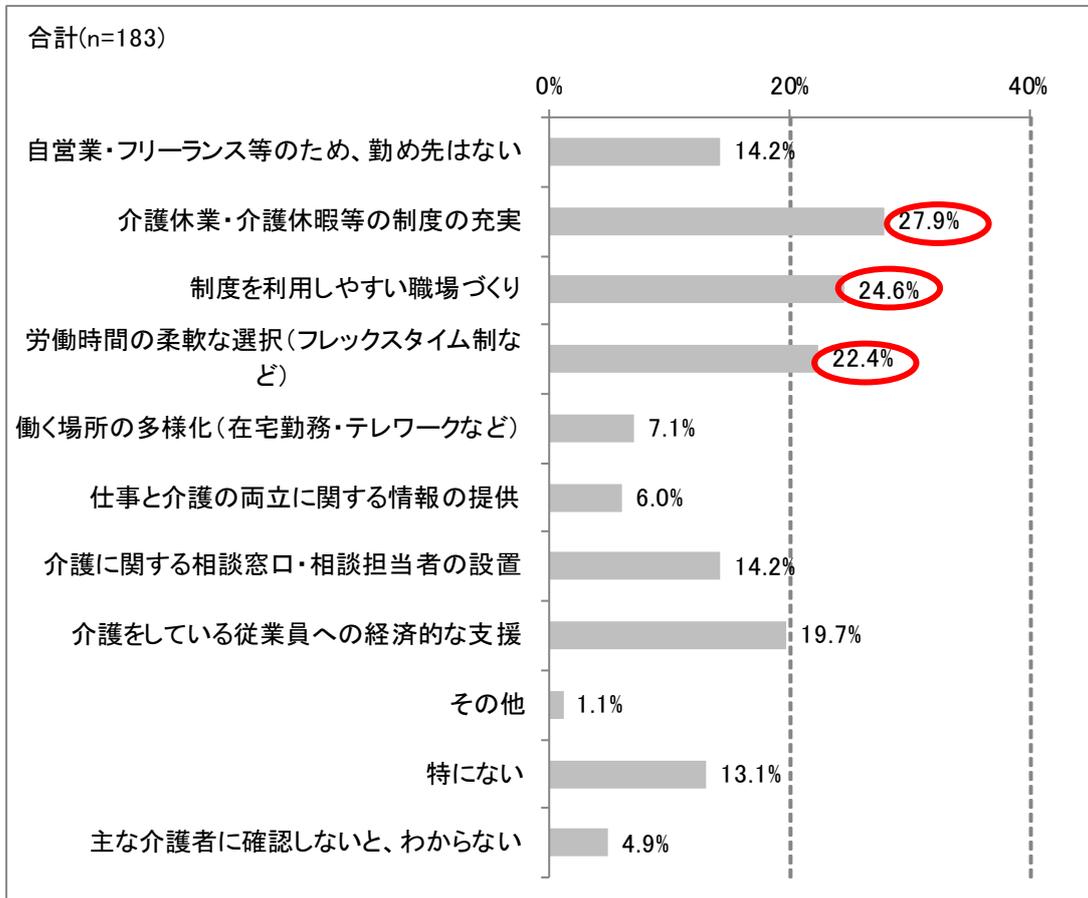


## 【検討テーマ2：仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討】

### (2) -①就労に効果的な支援策の実施に向けた働きかけ

就労の継続に向けて効果的な勤め先からの支援は、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」「労働時間の柔軟な選択」と続いている。仕事と介護の両立ができるよう、これらの施策を導入・実施するよう企業に働きかけていくことが必要である。

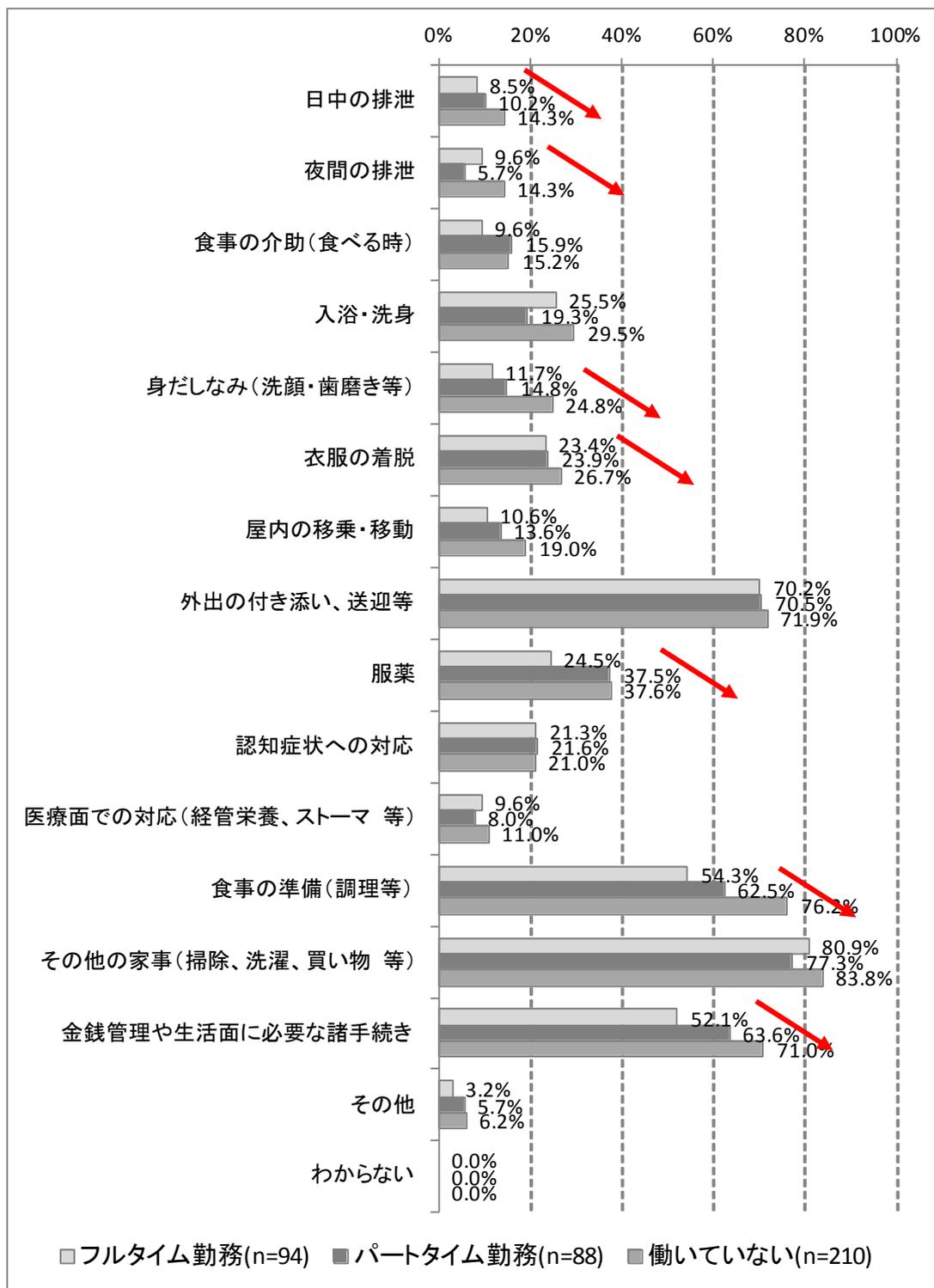
#### ■就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（単純集計版 P11）



## (2) -②就労形態に応じた介護サービスの充実

就労状況別に主な介護者が行っている介護をみると、多くの項目で、「フルタイム勤務」<「パートタイム勤務」<「働いていない」となっていることが伺える。このことから、「フルタイム勤務」と「働いていない」で、差が顕著な項目（食事の準備、金銭管理や生活面に必要な諸手続き）の支援を充実させることが就労につながる方策と考えることもできる。

■就労状況別・主な介護者が行っている介護（クロス集計版 P33）



**【検討テーマ3：保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討】**

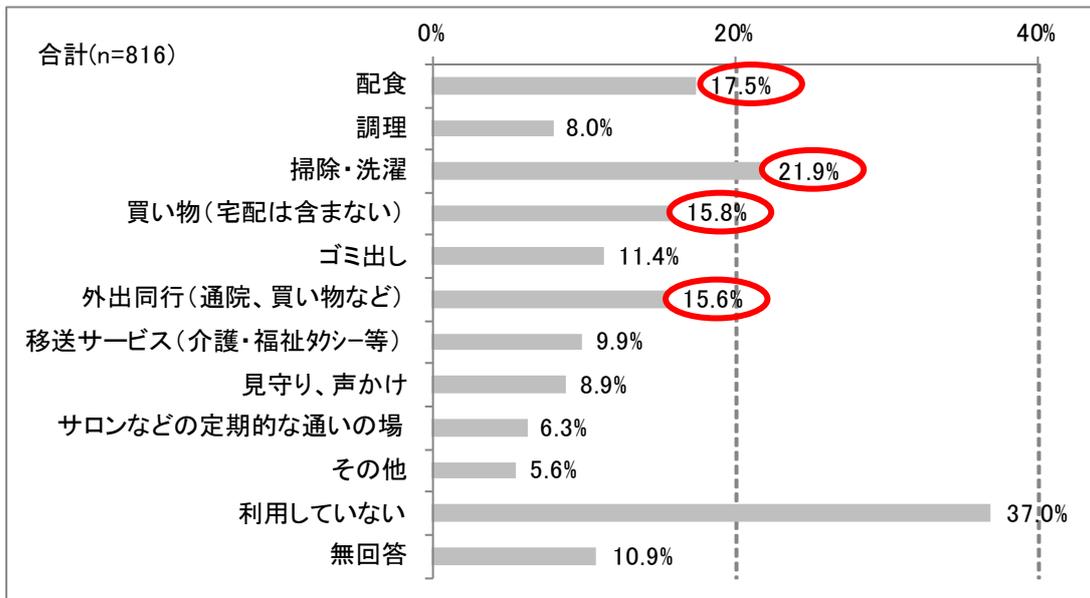
**(3) ①在宅生活の継続に必要な支援・サービスの充実**

利用している保険外の支援・サービスみると、「利用していない」が最も多いが、利用している項目でみると、「掃除・洗濯」が最も多く、次いで「配食」「買い物」「外出同行」と続いている。

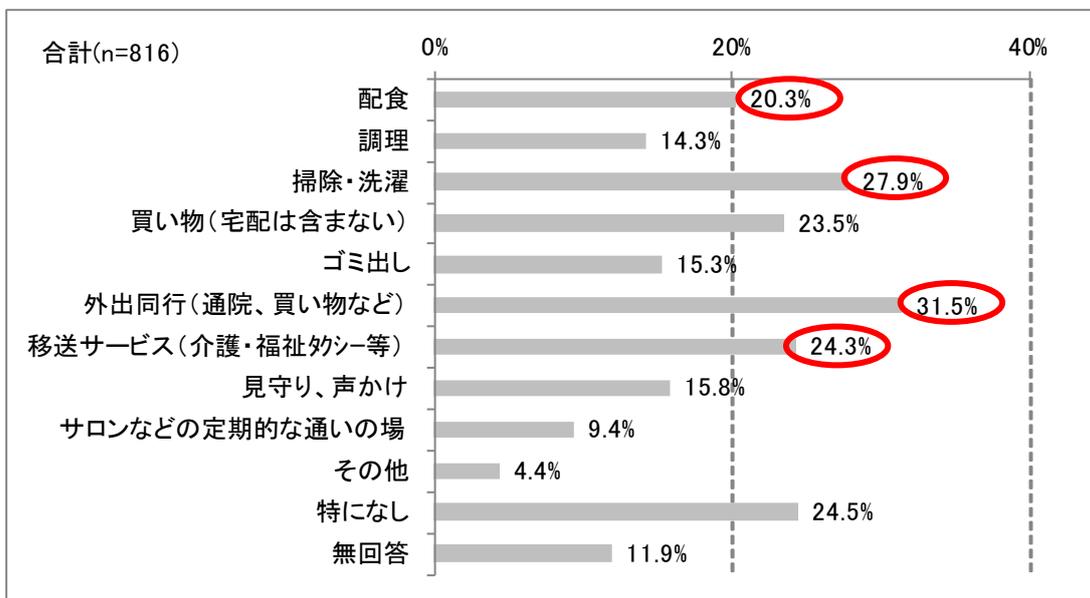
また、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、「外出同行」が最も多く、「掃除・洗濯」「移送サービス」「買い物」「配食」と続いている。

在宅生活の継続に向けては、上記に挙げた支援・サービスの充実に取り組むことが求められている。

■保険外の支援・サービスの利用状況（単純集計版 P5）



■在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単純集計版 P6）

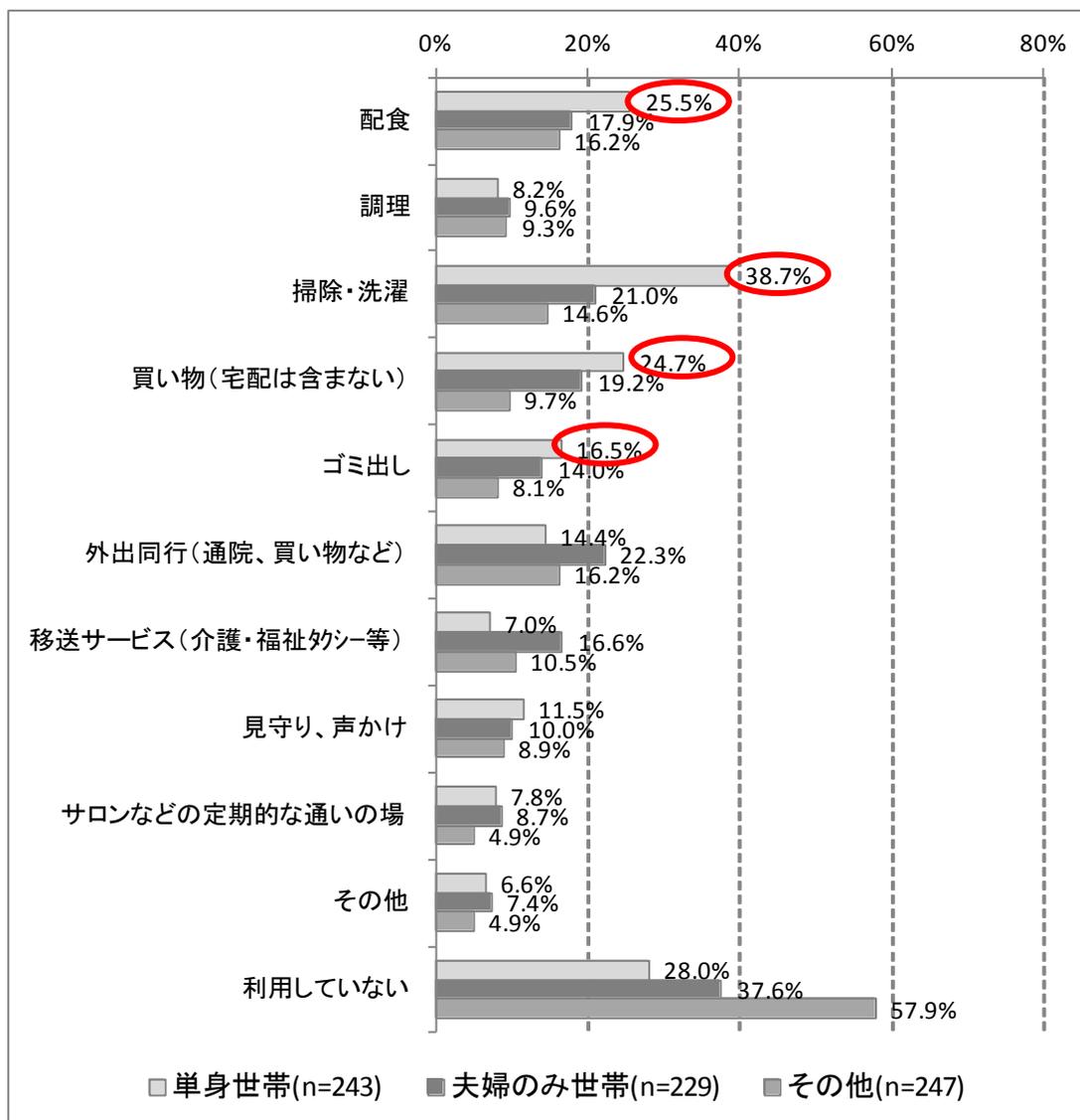


### (3) ②単身世帯への支援・サービスの充実

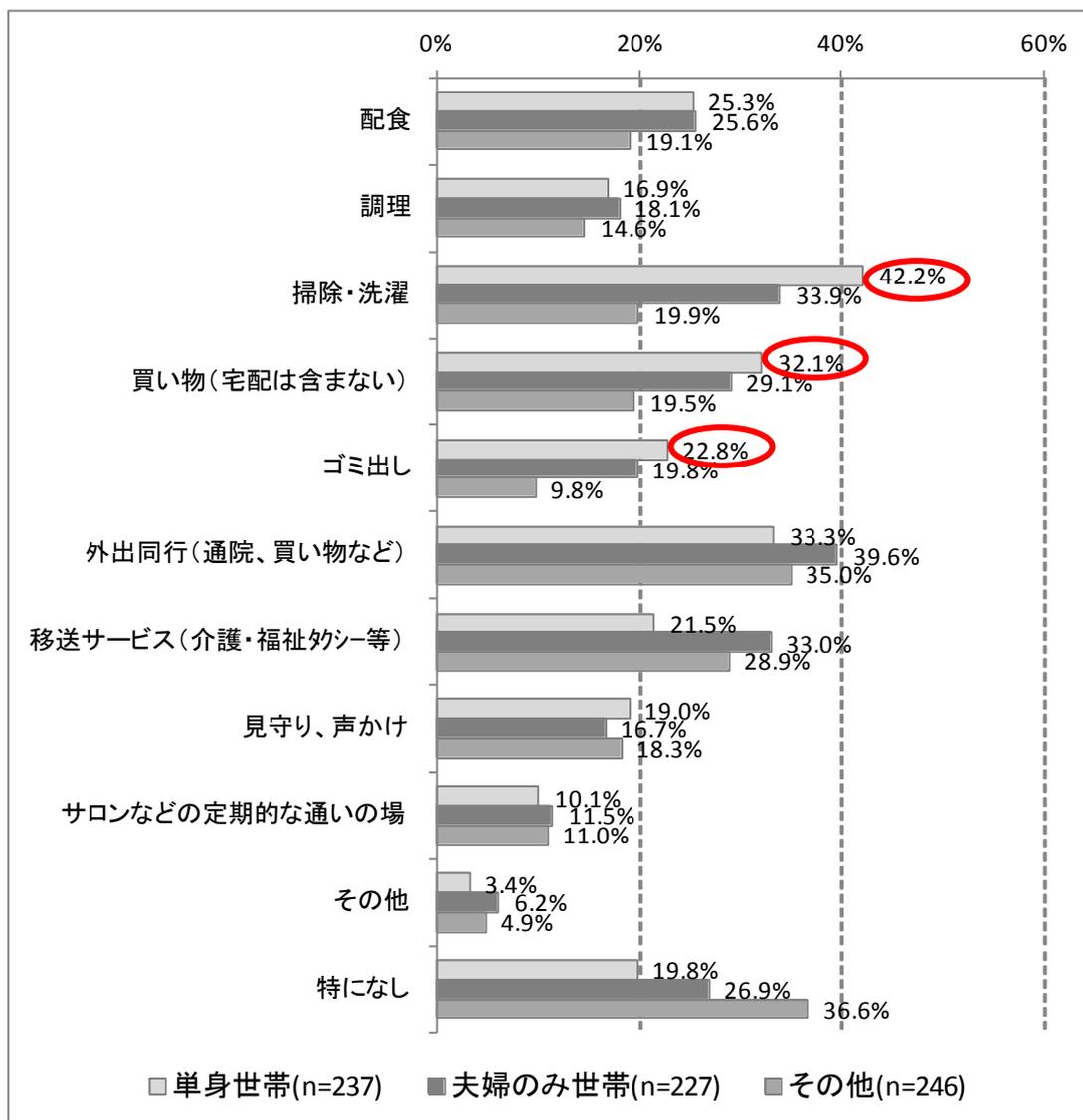
世帯類型別に利用している保険外の支援・サービスをみると、「単身世帯」では『配食』『掃除・洗濯』『買い物』『ゴミ出し』のニーズが他の世帯に比べて多くなっている。また、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「単身世帯」では『掃除・洗濯』『買い物』『ゴミ出し』が他の世帯に比べて多くなっている。

高齢化の進行とともに増加すると考えられる「単身世帯」の方が、在宅で安心して暮らすことができるよう、介護保険外を含めた支援・サービスの充実が求められている。

■世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況（クロス集計版 P50）



■世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（クロス集計版 P51）

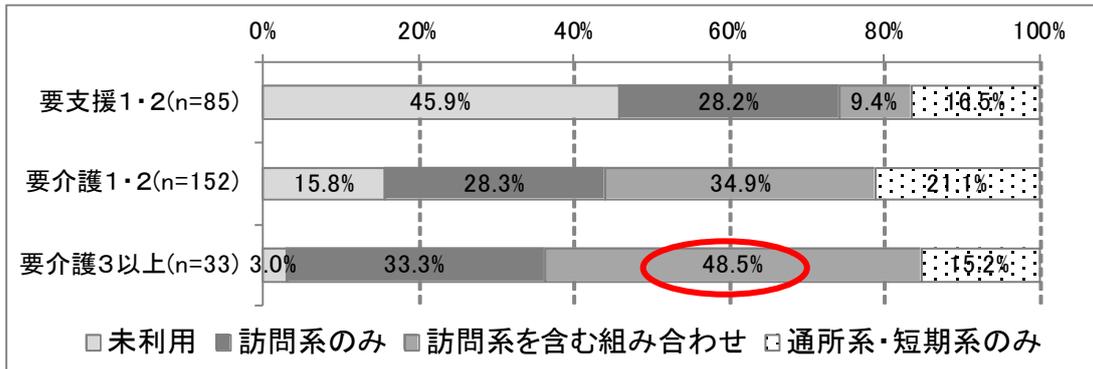


**【検討テーマ4：将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討】**

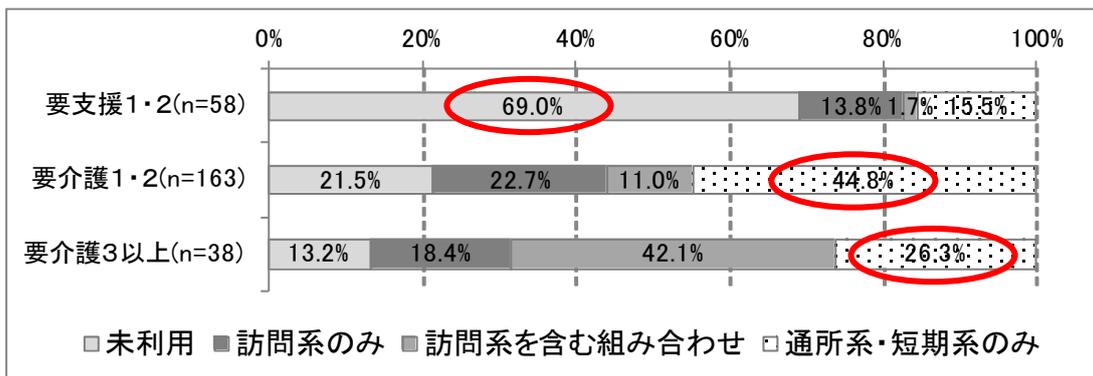
**(4) 適切なサービス利用の組み合わせの支援と負担軽減に向けた仕組みの充実**

世帯別の要介護度別・サービス利用の組み合わせをみると、「夫婦のみ世帯」「その他世帯」では、重度化に伴い、『通所系・短期系のみ』の割合が「単身世帯」と比べて2～3倍となっていること、また要支援1・2の場合は『未利用』が「単身世帯」と比べて多いことから、家族介護者に負担をかけていることが懸念される。家族介護者に負担をかけないよう、適切なサービス利用へとつなげていくことが求められる。あわせてレスパイトケアの機能を持つサービスの充実を図っていくことも必要である。また、今後増加すると考えられる要介護3以上の単身世帯に対応できるよう、「訪問系を含む組み合わせ」を充実していくことが必要となる。

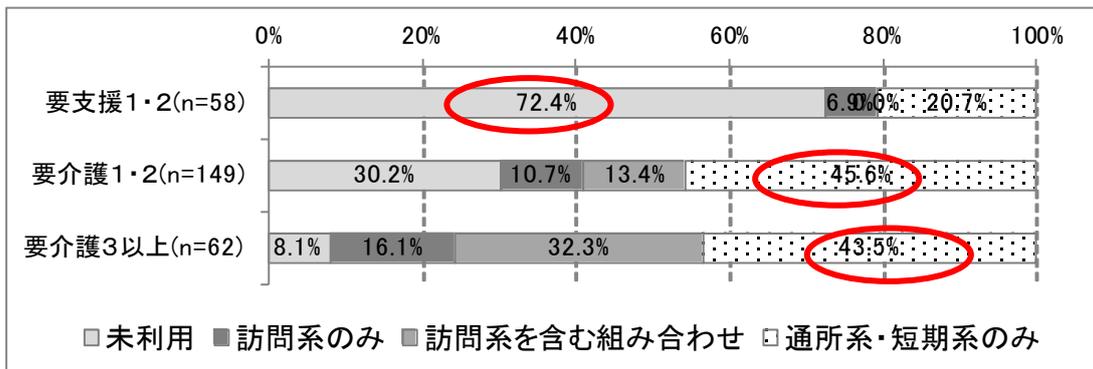
■要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯：クロス集計版 P66）



■要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯：クロス集計版 P66）



■要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯：クロス集計版 P66）



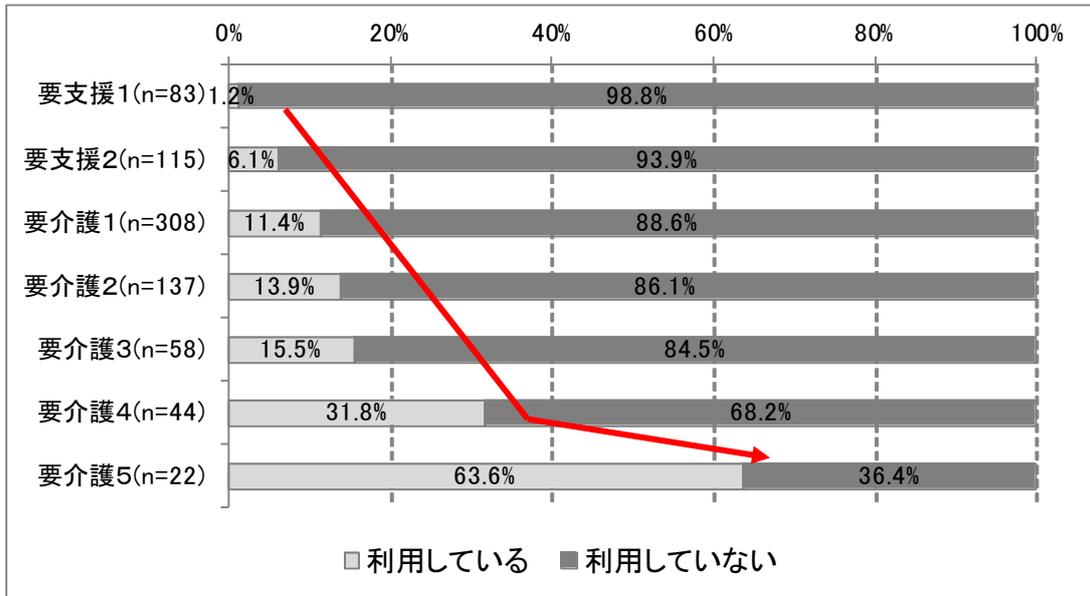
**【検討テーマ5：医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討】**

**(5) 在宅療養生活を支える支援の充実**

要介護度別に訪問診療の利用の有無をみると、重度化に伴い「利用している」が増加傾向となっている。また「利用している」では、『訪問系のみ』『訪問系を含む組み合わせ』が大半であり、医療ニーズのある要介護者の増加に伴い、訪問系サービスの重要性はより高くなるものと考えられる。

今後は、介護と医療の両方のニーズを持つ在宅介護者が増加することが見込まれることから、訪問診療へ対応できる体制や在宅介護サービス提供の仕組みを確保することが求められている。

■ 要介護度別・訪問診療の利用割合（クロス集計版 P77）



■ 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上：クロス集計版 P77）

